

行動する 青年部・女性部

60〜70年代を懐かしむ 「我が青春歌鑑賞会」

北海道標津町商工会女性部

標津町は北海道東部のオホーツク海に面し、北は世界遺産に登録された知床半島、東は納沙布岬を先端とする根室半島があり、洋上わずか24km先には北方領土・国後島を臨む町です。

人口5600人弱、漁業と酪農が基幹産業で、乳牛が人口の3倍を超える2万1000頭ほど育てられています。町名の「シベツ」とはアイヌ語で「鮭のいるところ、大川」を意味しており、10年ほど前は秋鮭の水揚げ量が日本一でした。
標津町商工会は会員数156人、2

010年度から高齢者の買い物支援として移動販売車「どこでもカウモン号」の運行を行って、地域貢献活動に取り組んでいます。

「住民の交流の場を作りたい」との思いがきっかけ

商工会女性部は、現在部員が70人在籍しています。1998年まで独自の事業は行っていませんでしたが、商工会の職員や会員が個人的に月2回、懐かしい曲を流しながら交流していたこ

とを当時の女性部長が知り、「この交流を基に町の活性化を図るための事業ができるのではないかと。青春時代の思い出の歌を聴く鑑賞会を行い、住民の交流の場を提

供しては」との発案がありました。

そこで、99年から、社会貢献や地域コミュニティの維持、さらに地域経済の活性化を目的として「我が青春歌鑑賞会」を開催することになりました。

音楽は、私たちに感動や希望をもたらしてくれそうです。とりわけ、自分たちの青春時代の歌を聴くと、ただ懐かし



イベントの裏方を務める女性部員から挨拶

いというだけではなく、若い頃の「自信」や「純真な心」がよみがえってくると思うのです。忙しくなった現代に、「音楽（歌）」を介し、心のふれあいや豊かな感性を実感できるようにと豊かさを作りたい、参加される方たちといっしょに地域の役に立てることをしたいとの考えから、単なる音楽鑑賞会だけでなく、住民のチャリティイベント

として開催、余剰金を町社会福祉協議会に寄付しています。

町民からのリクエストに応え、懐かしい楽曲を生演奏

毎年11月、「住民チャリティ・我が青春歌鑑賞会」を町内の生涯学習センターあすばる大ホールで開催しています。町民約200人が集まり、午後6時から2時間にわたり青春時代の音楽を楽しんでいます。

参加者は、事前に所定のカードにリクエスト曲と当時の思い出のエピソード

を記入して提出すると、当日、生バンドやCDでその曲が演奏されます。生バンドの演奏は、地元のアマチュアバンドが担当。60〜70年代の懐かしい音楽を中心に、約40曲が思い出のエピソードとともに次々と演奏され、参加者は曲に合わせて自由に踊ることもできます。

入場料は完全前売制で、一枚2500円で販売。会場内では、アルコールや清涼飲料水などを飲み放題（おつまみ付き）で提供しています。大人だけで青春時代を謳歌するイベントなので、未成年は入場不可としています。



地元アマチュアバンドの生演奏で、60年代の懐かしい音楽に浸る

また、前売券はカウモンシール会が発行する町内のポイントシールでも購入できるようにしています。鑑賞会終了後には、標津町の協力で会場から街中まで町営バスを



音楽に合わせて、ダンスを楽しむ人々たちも

運行してもらい参加者への利便性を図っています。これら前売券の販売や当日の会場準備、司会進行、そして後片付けはすべて女性部員が行っています。

地域への恩返しとなり、部員のモチベーションも高まる

町民から寄せられた懐かしい楽曲を演奏することが多くの人から支持され、我が青春歌鑑賞会は、今では標津町を代表するイベントとして定着しました。標津町商工会女性部の存在意義を大いに高めることになったうえ、日

頃町民のみならずお世話になっている女性部としては「恩返し」の場ができ、部員のモチベーションが向上、みなやりがいを感じています。参加者のほとんどが50代、60代で、同年代同士です。懐かしい曲を聴いて思い出を語り合いながら交流が図られ、地域のつながりが深まっています。前売券の販売では地元ポイントシールの活用が促進でき、鑑賞会終了後には参加者の多くが町内の飲食店街に流れることから、二次的経済波及効果が広がっています。

また、グループサウンズやビートルズの全盛期に青春時代を過ごした地元アマチュアバンドに発表の場を提供できたことや、入場料の一部をわずかながら町社会福祉協議会に寄付していることは、地域の文化の向上や福祉の増進に寄与していると自負しています。

今後の課題は、参加する年代層の偏りを解消していくことです。地域の若い世代の人たちも参加できるように企画を考え、世代を超えて交流できる場としてさらに盛り上げていきたいと思っています。